

お客様各位

2022年 4月 7日  
北興化学工業株式会社

## 変更登録のお知らせ

平素より弊社製品をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

此の度、2022年4月6日付で下記農薬の適用が変更登録されましたので、お知らせ致します。

### 農薬名

第24505号 ホクコーGPオリゼリディア箱粒剤

### 適用拡大の内容

- ・ 作物名「湛水直播水稻」を追加する。
- ・ 作物名「稲」を追加する。
- ・ 作物名「稲（箱育苗）」の適用病害虫名「ウンカ類」及び「ツマグロヨコバイ」の使用時期を「移植3日前～移植当日」から「緑化期～移植当日」に変更する。
- ・ 作物名「稲（箱育苗）」の使用時期「移植3日前～移植当日」の適用病害虫名に「もみ枯細菌病」、「内穎褐変病」、「白葉枯病」、「穂枯れ（ごま葉枯病菌）」、「イナゴ類」、「イネカラバエ」、「イネヒメハモグリバエ」及び「フタオビコヤガ」を追加する。
- ・ 作物名「稲（箱育苗）」の使用量に「高密度には種する場合は1kg/10a（育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り50～100g）」を下表の適用病害虫に追加する。

### 【追加・変更部分】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネミズゾウムシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (直播での場合は種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稻	いもち病		は種時		は種同時施肥機を用いて土中施用する。	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (は種時までの処理は1回以内)

次ページに続く

前ページから続く

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ		緑化期～ 移植当日				
	もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) イナゴ類 イネカラバエ イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ ニカメイチュウ	高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り50～100g)	移植3日前～移植当日				
	いもち病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ イナゴ類 イネカラバエ イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ						

【注意事項の変更（追加内容）】

- ・ は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- ・ 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ・ 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - ・ 移植後は湛水状態（湛水深3～5 cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - ・ 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- ・ 育苗箱へ処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ・ 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - ・ 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約 5L）1箱当りに乾剤として200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。

製品情報の詳細は、[こちら\(農薬製品・安全データシート \(SDS\) 一覧\)](#) からご参照下さい。

以上